

# MITSUBISHI

三菱電機 空調管理システム  
三菱電機スリムエアコン用共通  
**MAスムーズリモコン**  
**PAR-26MA1**  
据付工事説明書

販売店・工事店さま用

この説明書は三菱電機空調管理システム、直形マルチエアコン室内ユニット(Cタイプ)降用と三菱電機スリムパッケージエアコン用共通のMAスムーズリモコンの据付工事についてのみ記載しております。よくお読みの上、正しく据付けてください。なお空調機本体への配線、および空調機本体の据付工事に関しては、空調機本体の据付説明書をご覧ください。本説明書につきましては、据付工事完了後にお客様にお渡しください。

## 1 安全のために必ず守ること

- 据付工事はこの「安全のために必ず守ること」をお読みのうえ、確実に行なって下さい。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で説明しています。
- ▲警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
- ▲注意 誤った取扱いをしたときに、傷害または家産、家財などの損害に結びつくもの
- お読みになったあとは、室内ユニットに添付された取扱説明書などとともに、お使いになる方に必ず本書をお渡し下さい。
- お使いになる方は、取扱説明書などとともに、いつでも見られる所に保管し、移設・修理の際は工事される方に、とお使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方に必ずお渡し下さい。

### ▲警告

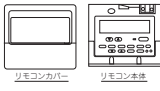
据付は、販売店または専門業者に依頼する。 お客様自身で据付をされ不備があると、感電、火災等の原因になります。	据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行なう。 据付に不備があると、感電、火災等の原因になります。
据付は、充分に耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、本機の落下により、ケガの原因になります。	電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電機移設に関する技術基準」、「内閣規定」、及び本説明書に従って施工する。 電気回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。
配線は所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わるないように固定する。 接続や固定が不完全の場合は、発熱、火災等の原因になります。	お客様自身で移設はしない。 据付工事に不備があると感電、火災等の原因になります。お買上げの販売店または専門業者に依頼して下さい。
改造、修理は絶対しない。 改造したり、修理に不備があると感電、火災等の原因になります。 修理はお買上げの販売店にご相談ください。	

### ▲注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ据付けない。 万一ガスが漏れて本機の周囲に溜まると発火、爆発の原因になることがあります。	浴室など大量の湯気が発生する所には据付けない。 水のかかる場所、壁が乾きやすいような場所を避けてください。感電、故障の原因になります。
特殊環境には使用しない。 油(機械油を含む)、蒸気、酸化ガスなどの多い場所で使用すると性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。	酸性、アルカリ性の溶液、特殊なスプレー等類剤に使用すると腐食は据付けない。 感電、故障の原因になります。
病院、通信事業所などに据付けられる場合は、ノイズに対する備えを充分に行なう。 インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器等の影響による本機の誤動作や故障の原因になり、本機側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの被害の原因になることがあります。	配線は電圧容量にあった規格品の電線を使用すること。 漏電や発熱、火災の原因になります。
配線は強力がからないように配線工事を行なう。 新設したり、発熱、火災の原因になります。	濡れた手でボタンを操作しない。 感電、故障の原因になります。
リモコンケーブル引き込み口を、パテで確実にシールする。 露、水、ゴキブリ、虫等の侵入のため、感電、故障の原因となることがあります。	本機を水洗いしない。 感電、故障の原因になります。
本機を据付る付近の温度が40℃以上、0℃以下になる場所、または直射日光のあたる場所には据付けない。 変形、故障の原因となることがあります。	ボタンを先のとがった物で押さない。 火災、感電の原因になります。
AC100VやAC200Vは絶対に印加しない。リモコンへの印加電圧は最大12Vです。破壊、発火、火災の原因となります。	

## 2 部品確認

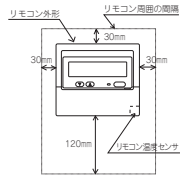
- 箱の中には、この説明書の他に次の部品が入っていますのでご確認ください。
1. リモコン (カバー、本体) ………………1
  2. 十字穴付きネジ ………………M4×30 ………………2
  3. ネジ ………………M4.1×16 (壁に直接据付する場合) ………………2
- \*1 リモコンケーブルは別売です。現地調達するがPAC-YT82HC(10m)、PAC-YT82HC(20m)をお求めください。



1

## 3 据付方法

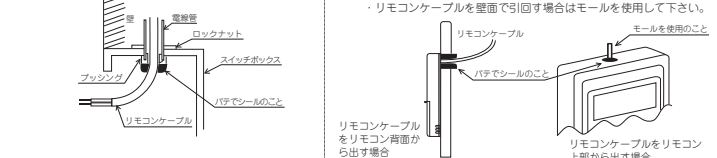
1. リモコン (スイッチボックス) の据付位置を決めてください。  
ただし、下記の事項を必ず守ってください。  
(1) 温度センサはリモコンと室内ユニットの両方についていますが、リモコンの温度センサを使用する場合、主リモコンに設定したリモコンにて室温を検知します。主リモコンは部屋の平均的な温度を検知できる場所で、直射日光やエアコンの吹き出し空気が直接当たらないなど熱源の影響を受けない所に据付けてください。



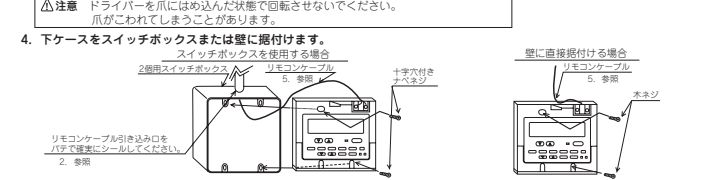
- ▲注意 室温と室温の差が大きいところ(隅)には、設置箇所温度の影響を受けた設置面表面付近温度を測定するため室温と差が出る可能性があります。以下のような設置状況の場合は室内ユニットの温度センサを使用してください。  
・室内の気流分布が悪く、設置面まで空気が到達しにくい場合  
・設置面の温度と室温の差が大きい場合  
・設置面の背面が外気に接している場合  
また、急激な温度変化がある場合、温度検知の遅延性は悪くなります。

- 設置面の影響を受けやすい場所にて、かつリモコンの温度センサを使用する場合、別売のリモコン用ベアサ(形名:PAC-YT83RS)を使用してください。  
(リモコンの主/従設定は「設定選定」(1)リモコン [4]-3. (1)を、温度センサの設定についてはフリープランシステム室内ユニットの据付説明書、スリムエアコンでは「設定選定」(2)ユニット機能選定をご覧ください。
- (2) スイッチボックス、壁と両面に据付する場合でも右図に示すスペースを確保してください。

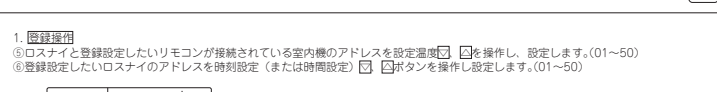
- お願い リモコンの温度センサの付近に配線がないことを確認してください。  
配線などがある場合、リモコンにて正確な室温を検知できません。
- (3) 下記の部品は現地で調達してください。  
・2個用スイッチボックス (JIS C8340)  
・薄銅線管 (JIS C8305)  
・ロックナット、ワッシャー (JIS C8330)  
・モールド (JIS C8425)



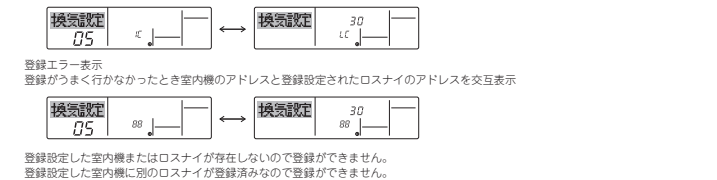
2. 露、水漏、ゴキブリ、虫などの侵入防止のためリモコンケーブル引き込み口をパテで確実にシールしてください。  
壁に直接据付する場合  
・スイッチボックスに据付けた場合はスイッチボックスと電線管の結合部をパテでシールしてください。  
・壁に穴を開けリモコンケーブルを通す場合 (リモコンケーブルをリモコン背面から出す場合) その穴をパテでシールしてください。  
・上カバーの切り取った部分よりリモコンケーブルを通す場合は上カバーの切り取った部分を同様シールしてください。  
・リモコンケーブルを壁面から引回す場合はモールドを使用して下さい。



3. リモコン本体のカバーを外します。  
・マイナスドライバーを爪部にはめ込み矢印で示す方向に動かします。

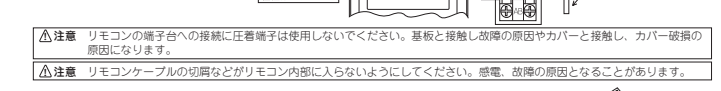


- ▲注意 ドライバーを爪にはめ込んだ状態で回転させないでください。  
爪がこわれてしまうことがあります。
- 4. 下ケースをスイッチボックスまたは壁に据付けます。  
スイッチボックスを使用する場合  
2個用スイッチボックス、リモコンケーブル、ネジ、ワッシャー、ロックナット、十字穴付きネジ



- ▲注意 ネジを締めすぎないでください。下ケースの変形、割れの原因になります。
- お願い 据付面は壁に十分な所をお選びください。  
・スイッチボックスまたは壁への据付は必ず2ヶ所以上を固定してください。  
・再度、壁へ取付けの際は、モリーアンカーなどを使用し、確実に固定してください。

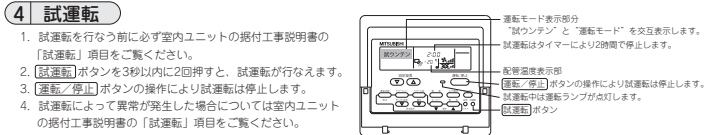
5. リモコンケーブルを本体の端子台に接続します。  
室内機リモコン端子台



- ▲注意 リモコンの端子台への接続に圧着端子は使用しないでください。基板と接触し故障の原因やカバーと接触し、カバー破損の原因になります。
- ▲注意 リモコンケーブルの切断端がリモコン内部に入らないようにしてください。感電、故障の原因となることがあります。

6. 壁などに直接リモコンを据付る場合の配線穴 (露出配線の場合)  
・カバーの内側内部 (斜線部) をナイフ、ニッパーなどで切り取ってください。  
・端子台に接続したリモコンコードをこの部分から出します。

7. 本体にカバーをはめ込みます。  
カバーを外す場合は右図のようにマイナスドライバーを爪部にはめ込み矢印で示す方向に動かします



- ▲注意 「パチッ」と音がするまで確実にはめ込んでください。  
確実にはまっていない場合、落下の恐れがあります。
- ▲注意 ドライバーを爪にはめ込んだ状態で回転させないでください。  
爪がこわれてしまうことがあります。
- お願い 操作面には保護シートが貼ってあります。ご使用の際は、保護シートをはがしてください。

## 4 試運転

1. 試運転を行なう前に必ず室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。
2. 「試運転」ボタンを3秒以内に2回押すと、試運転が行なえます。
3. 「運転/停止」ボタンの操作により試運転は停止します。
4. 試運転によって異常が発生した場合には室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。

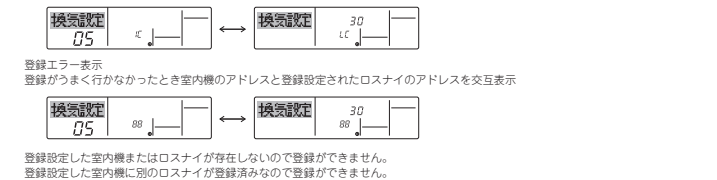
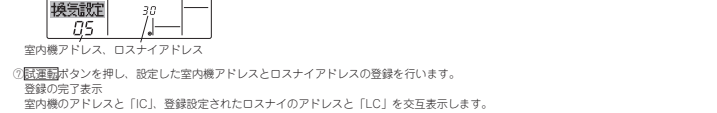


## 5 換気設定

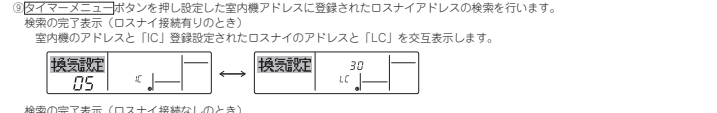
- フリープラン機種でロスナイとの連動運転を行う設定が必要な場合のみ設定してください。(スリムエアコンでは、設定できません。)
- \*上位コントローラが接続される場合は、上位コントローラより設定してください。
- お願い ロスナイと連動設定させる場合、必ずグループ内全ての室内ユニットアドレスとロスナイのアドレスを連動設定してください。  
リモコンが接続されている室内ユニットのロスナイ登録、登録した内容の検索、登録抹消設定を行う場合この操作を行います。  
ここでは、室内ユニットアドレス05、ロスナイアドレス30の場合を例に説明します。
- [操作手順]
- ①リモコンの「運転/停止」ボタンで空調機を停止の状態にします。  
このとき、以下の停止表示でなければ、②の操作ができません。
- 
- ②「フリルター/ルーバー」ボタンを同時に2秒押しすると下図の表示になり、現在リモコンが接続されている室内機に登録しているロスナイの検索を行います。
- 
- ③登録検索結果  
・室内機のアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示します。
- 
- 室内機アドレス表示  
ロスナイが登録設定されていない場合
- ④ここで、何も設定する必要がなければ、「フリルター/ルーバー」ボタンを同時に2秒押し、終了します。  
新たにロスナイを登録したい場合は2. 「検索実行」  
ロスナイの検索をしたい場合は2. 「検索実行」  
いまの登録されているロスナイを抹消する場合は、3. 「抹消実行」

3

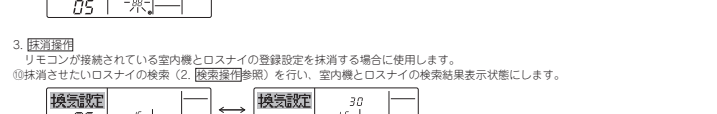
1. 「設定実行」
- ⑤ロスナイと登録設定したリモコンが接続されている室内機のアドレスを設定温度 [ ] を操作し、設定します。(01~50)
- ⑥登録設定したロスナイのアドレスを時刻設定 (または時間設定) [ ] ボタンを操作し設定します。(01~50)



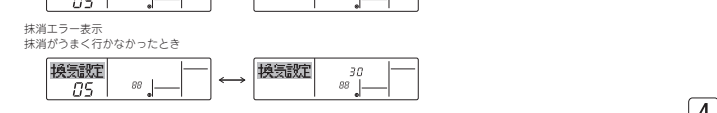
2. 「検索実行」
- ⑦ロスナイの検索をしたいリモコンが接続されている室内機のアドレスを設定温度 [ ] ボタンを操作し、設定します。(01~50まで)



3. 「抹消実行」
- リモコンが接続されている室内機とロスナイの登録設定を抹消する場合に使用します。
- ⑧抹消させたいロスナイの検索 (2. 「検索実行」参照) を行い、室内機とロスナイの検索結果表示状態にします。



- ⑨「マイマニ」ボタンを2度押し、設定した室内機アドレスに登録されたロスナイアドレスの登録の削除を行います。  
抹消の完了表示  
室内機のアドレスと「--」、登録設定されたロスナイのアドレスと「--」を交互表示します。



4

# 6 機能選択

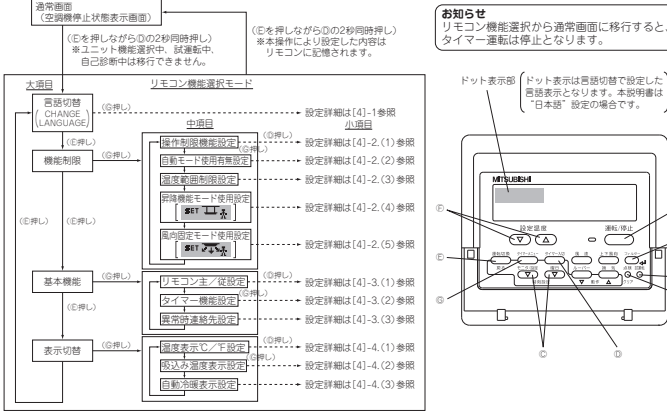
## (1) リモコン機能選択

リモコン機能選択モードでは下記のリモコンの機能を設定変更できます。必要に感じ、設定変更をしてください。

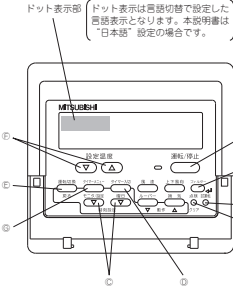
大項目	中項目	小項目 (設定内容)
1. 言語切替 (CHANGE LANGUAGE)	表示する言語の設定を行います。	多言語表示ができます。
2. 機能制限	(1) 操作制限機能設定 (操作ロック) (2) 自動モード使用設定 (3) 送風制御機能設定 (4) 送風制御モード使用設定 (5) 風向固定モード使用設定	操作制限 (操作ロック) の範囲を設定します。 運転モードの (上送) 操作を禁止を設定します。 送風制御機能 (上送) 機能を設定します。 送風制御モードの使用有無を設定します。 風向固定モードの使用有無を設定します。
3. 基本機能	(1) リモコン主/従設定 (2) タイマー機能設定 (3) 異常時の連絡先設定	※1リモコン2台接続時どちらか一方を「従」設定にします。 使用するタイマーの種類を設定します。 異常発生時に連絡先の電話番号を表示させることができます。電話番号の設定をします。
4. 表示切替	(1) 温度表示℃/F設定 (2) 吸込み温度表示設定 (3) 自動冷暖表示設定	表示する温度単位 (℃/F) を設定します。 室内 (吸込み) 温度表示の有無を設定にします。 自動モード運転時の「冷房」/「暖房」表示有無を設定します。

### 機能選択の流れ

- [1] 空運転停止状態にして、リモコン機能選択モードに移行する → [2] 大項目を選択する → [3] 中項目を選択する → [4] 小項目 (内容を設定する) → [5] 設定完了 → [6] 通常画面に移行する (終了)



**お知らせ** リモコン機能選択から通常画面に移行すると、タイマー運転は停止となります。

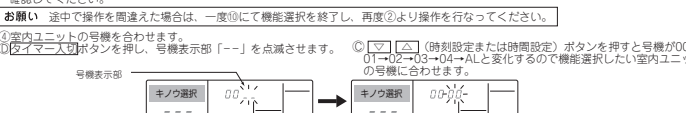


**【設定詳細】**  
[4]-1. 言語切替設定  
本設定により、ドット表示部に表示する言語を設定します。  
タイマーメニューボタンを押して下記内容を変更します。  
① 日本語 (J), ② 英語 (GB), ③ ドイツ語 (D), ④ スペイン語 (E), ⑤ ロシア語 (RU), ⑥ イタリア語 (I), ⑦ 中国語 (CH), ⑧ フランス語 (F)

[4]-2. 機能制限設定  
(1) 操作制限機能設定 (操作ロック)  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① ON: 運転停止ボタン以外操作ロック設定となります。  
② OFF (初期設定): 操作ロック設定となります。  
※通常運転中に操作ロックを実行すると、上記設定後に通常画面にて実行ボタン (フィルターボタン/送風停止ボタン) の同時押しが必要となります。  
(2) 自動モード使用設定  
運転モード自動有リユニットに接続されている場合、下記内容の設定を行うことができます。  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① ON (初期設定): 運転モード選択操作時に自動モードを表示します。  
② OFF: 運転モード選択操作時に自動モードを表示しません。  
(3) 送風制御機能設定  
設定内容変更後は、変更した範囲内で温度変更が可能となります。  
・タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① 冷房モード: 冷房/ドライモードでの設定温度範囲を変更します。  
② 暖房モード: 暖房モードでの設定温度範囲を変更できます。  
③ 自動モード: 自動モードでの設定温度範囲を変更できます。  
④ OFF (初期設定): 送風制御機能は実行されません。  
※OFF以外が設定された場合、冷房、暖房、自動モードの温度制限設定が同時に実行されます。ただし、設定温度範囲が変更されなければ制限は実行されません。  
・設定温度ボタン、または設定温度△ボタンを押す毎に設定値がアップ、ダウンします。  
・風速ボタンを押して上階級設定、下階級の選択を切り替えます。  
※設定可能な範囲は下表のとおりになります。  
(4) 送風制御モード使用設定  
・タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① ON: 送風制御モードへの移行操作が有効となります。  
② OFF: 送風制御モードへの移行操作が常時無効となります。  
※移行操作: 停止表示中のフィルターボタン換気ボタンの同時押し。

## (2) 機能選択の手順

- ① 機能選択の各モードの設定内容を確認してください。機能選択にて各モードの設定内容を変更した場合、そのモードの設定内容が変わります。  
② ①-④に使用している全設定内容を確認し、表1のチェック欄に記入の上、設定を変更してください。なお、工場出荷時の設定については室内ユニットの取付工事説明書をご覧ください。
- ③ リモコンを停止にします。  
A (フィルター) ボタンを同時に2秒以上押しします。  
B (フィルター) ボタンを同時に2秒以上押しします。  
※冷房アドレス表示部、吸込み温度表示部、送風モード表示部が点滅し、しばらくするとリモコンの表示が下記の表示になります。



※モード1~3を設定する場合は、「00」に合わせてください。  
※モード7~11を設定する場合は、  
・各室内ユニットごとに行なう場合は、「01~04」に合わせてください。  
・全室内ユニットごとに行なう場合は、「AL」に合わせてください。

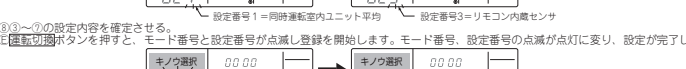
⑤ 冷房アドレス、送風モードの確定  
E (送風制御) ボタンを押して、冷房アドレス、送風モードを確定します。  
しばらくするとモード番号表示部「-」が点滅します。  
モード番号表示部  
※室温表示部に「88」が点滅表示する場合、選択した冷房アドレスがシステム内にありません。  
また、モード番号表示部「E」となり、冷房アドレス表示部とともに点滅表示となる場合は、選択したモードが存在しません。②、③にて冷房アドレス、送風モードを修正して設定してください。



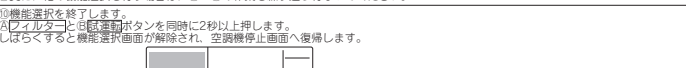
⑥ モード番号の選択  
D (設定温度) ボタンにより設定したいモード番号を設定します。(設定可能なモード番号のみ選択できます。)



⑦ 選択したモードの設定内容を選択します。  
G (タイマーメニュー) ボタンを押すと、現在設定されている設定番号が点滅します。これにより現在の設定内容を確認してください。



⑧ ②-⑦の設定内容を確定させる。  
E (送風制御) ボタンを押すと、モード番号と設定番号が点滅し発光を開始します。モード番号、設定番号の点滅が点灯になり、設定が完了します。



※モード番号および設定番号が「-」となり室温表示部に「88」が点滅表示となる場合は、通信異常が考えられます。伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。  
⑨更に、他の機能選択を行なう場合は、②-④の作業を繰り返して行ってください。

⑩機能選択を終了します。  
A (フィルター) ボタンとB (送風停止) ボタンを同時に2秒以上押しします。  
しばらくすると機能選択画面が解除され、空運転停止画面へ復帰します。  
※機能選択終了後、30秒間はリモコンより操作しないでください。  
⑪ 工場完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全設定内容を表1のチェック欄に○印などで記入して確認ください。

※詳細機能モードでの設定詳細については、ユニットの説明書をご覧ください。  
機能選択モードでは空運転時(パネル)の距離を行うことができます。

- (5) 風向固定モード使用設定  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① ON: 風向固定モードへの移行操作が有効となります。  
② OFF: 風向固定モードへの移行操作が常時無効となります。  
※移行操作: 停止表示中のフィルターボタンと換気ボタンの同時押し。  
風向固定モードでの設定詳細については、ユニットの説明書をご覧ください。  
風向固定モードにて送風制御モードの位置を設定することができます。

- [4]-3. 基本機能設定  
(1) リモコン主/従設定  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
主: 主設定となります。従: 従設定となります。  
(2) タイマー機能設定  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します(いずれか一つを選択)。  
① タイマーメニュー ボタン: 通常のタイマー使用可能となります。  
② タイマーメニュー (初期設定) M.A.S.U.M (送風): 通常のタイマー使用可能となります。  
③ タイマーメニュー (初期設定) M.A.S.U.M (送風): タイマー使用不可となります。

- [4]-4. 表示切替設定  
(1) 温度表示℃/F設定  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① C: 温度表示単位を華氏表示にします。  
② F: 温度表示単位を華氏表示にします。  
(2) 吸込み温度表示設定  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① ON: 吸込み温度を表示させません。  
② OFF: 吸込み温度を表示させません。  
(3) 自動冷暖表示設定  
タイマー人切ボタンを押して下記内容を変更します。  
① ON: 自動モード運転時、「自動冷房」または「自動暖房」表示のどちらかが表示されます。  
② OFF: 自動モード運転時、「自動」のみが表示されます。

(2) ユニット機能選択 [スリムエアコン]に変更が必要な場合のみ設定してください。(フリープランでは、設定できません。)

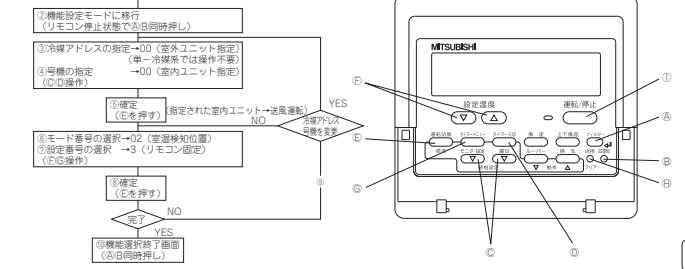
リモコンにより必要に応じて各ユニットの機能を設定します。各ユニットの機能選択はリモコンからのみ設定可能です。

表1 ユニット機能選択が必要な項目を選択してください。  
表1. ユニット機能選択内容 (各ユニットの出荷設定内容、モードについての詳細はユニットの取付工事説明書をご覧ください。)

機能選択内容	設定内容	モード番号	設定番号	チェック欄	対象ユニット
停電自動復帰	無し	01	1	<input type="checkbox"/>	00号機
同時運転	有り (電源復帰後、約4分待機が必要です。)	02	2	<input type="checkbox"/>	
室温検知位置	リモコン接続室内ユニット固定	02	2	<input type="checkbox"/>	全室内ユニットに対し設定を行なう項目です。
	リモコン内蔵センサー	03	3	<input type="checkbox"/>	
ロ ス ナ イ 接 触	接続有り (室内ユニット外気取入無し)	03	2	<input type="checkbox"/>	
	接続有り (室内ユニット外気取入有り)	03	3	<input type="checkbox"/>	
自動運転モード	省エネサイクル自動有効	05	2	<input type="checkbox"/>	
	省エネサイクル自動無効	05	1	<input type="checkbox"/>	
	100時間	07	1	<input type="checkbox"/>	01~04号機 又はAL
フィルタサイン	250時間	07	2	<input type="checkbox"/>	
	フィルターサイン表示無し	07	3	<input type="checkbox"/>	
風 量	標準	08	1	<input type="checkbox"/>	
	高天井	08	3	<input type="checkbox"/>	
吹 出 し 口	4方向	09	2	<input type="checkbox"/>	
	3方向	09	1	<input type="checkbox"/>	
オプション組み込み	無し	10	2	<input type="checkbox"/>	各室内ユニットに対し設定を行なう項目です。
	有り	11	1	<input type="checkbox"/>	
上下設定	ペーン有り第1設定	11	2	<input type="checkbox"/>	
	ペーン有り第2設定	11	3	<input type="checkbox"/>	
省 エ ネ 暖 気 流	無効	12	1	<input type="checkbox"/>	
	有効	12	2	<input type="checkbox"/>	
加湿器組み込み	無し	13	1	<input type="checkbox"/>	
	有り	13	2	<input type="checkbox"/>	

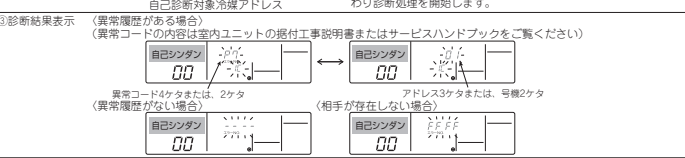
① お願い 工場完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全設定内容を表1のチェック欄に○印などで記入して確認ください。

機能選択の流れ  
まずは機能選択の流れをつかんでください。ここでは表1の「室温検知位置」の設定を例に説明します。(実際の操作については【操作手順】①~⑩をご覧ください)

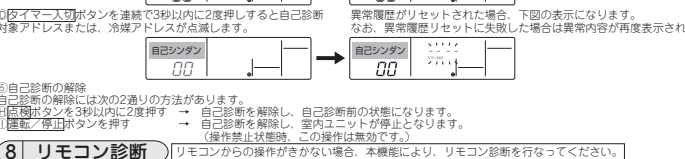


## 7 自己診断

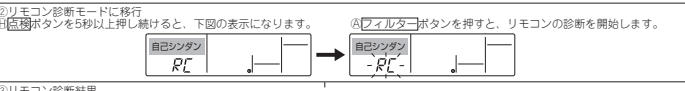
- ① 自己診断したいアドレスまたは、冷房アドレスNo.を合わせます。  
リモコンにて各ユニットの異常履歴を検索します。  
② 自己診断モードに切り替えます。  
E (送風制御) ボタンを押すと01~60または、00~15の間で前後するの自己診断モードの自己診断したい自己診断対象アドレスNo.または、冷房アドレスNo.に合わせます。



③ 診断結果表示 (異常履歴がある場合)  
(異常履歴の内容は室内ユニットの取付工事説明書またはサービスハンドブックをご覧ください)



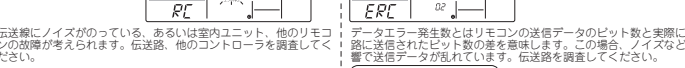
④ 異常履歴リセット操作  
③の診断結果表示画面にて異常履歴を表示させます。



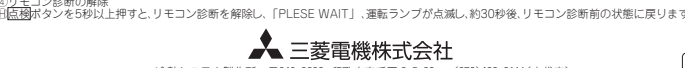
⑤ 自己診断の解除  
自己診断モードには2通りの方法があります。  
① 自己診断モードに切り替える → 自己診断を解除し、自己診断前の状態になります。  
② 送風制御ボタンを押す → 自己診断を解除し、室内ユニットが停止となります。(操作禁止状態時、この操作は無効です。)

## 8 リモコン診断

- ① まずは送電マークを確認してください。  
リモコンに正常な電圧 (DC12V) が印加されていない場合、送電マークは点灯していません。  
送電マークが点灯している場合は、リモコン配線、室内ユニットを点検してください。



② リモコン診断モードに移行  
E (送風制御) ボタンを5秒以上押し続けると、下記の表示になります。  
A (フィルター) ボタンを押すと、リモコンの診断を開始します。



③ リモコン診断結果  
リモコン正常時  
リモコン異常時 (異常表示) 「NG」が点滅→リモコン受信回路不良  
リモコンの問題はありませんので他の原因を調査してください。リモコンの交換が必要です。  
リモコン診断したリモコン以外に問題が考えられる場合 (異常表示2) 「E3」「6833」「6832」が点滅→送信不可 (異常表示3) 「E3C」とデータエラー数を表示→データエラーの発生  
伝送線にノイズがのっている、あるいは室内ユニット、他のリモコンの故障が考えられます。伝送線、他のコントローラを調査してください。  
データエラー発生数とはリモコンの送信データのビット数と実際に伝送路に送信されたビット数の差を意味します。この場合、ノイズなどの影響で送信データが乱れています。伝送路を調査してください。  
④ リモコン診断の解除  
E (送風制御) ボタンを5秒以上押しすると、リモコン診断を解除し、「PLEASE WAIT」運転ランプが点滅し、約30秒後、リモコン診断前の状態に戻ります。